

E A 2 1	初 版	第 4 訂
2 0 1 0 年	5 月 3 1 日	作 成
2 0 1 0 年 1 0 月 2 9 日	改 訂	

環境活動レポート



○ 対象組織：沖縄国際大学全組織

■大学キャンパス
(沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号)



■東村セミナーハウス
(沖縄県国頭郡東村字平良屋之北原 766 番地)



□沖縄国際大学後援会(事務室)
(大学キャンパス内沖縄国際大学厚生会館3階)

□沖縄国際大学校友会(事務室)
(大学キャンパス内沖縄国際大学厚生会館3階)

○ 対象期間：2009年11月～2010年1月
(この範囲外の部分は当該箇所に明記)

○ 作成年月日：2010年5月31日
(改訂年月日：2010年10月29日)

○ 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン～持続可能な社会をめざして～(2007年版)」

財団法人 地球環境戦略研究機関 持続性センター
エコアクション21中央事務局
「エコアクション21 2004年版－環境経営システム・
環境活動レポートガイドライン－大学等(教育・研究
機関)向けマニュアル(試行版)」

も く じ

1. 沖縄国際大学環境方針	1
2. 大学概要	
2-1 沖縄国際大学の概要	2
2-2 学部学科紹介	3
2-3 キャンパスマップ	5
2-4 組織機構図	6
3. 環境マネジメントシステムの状況と環境への取組	
3-1 エコアクション21実施体制	7
3-2 環境への主な取組と負荷の全体像	8
3-3 環境負荷の状況	9
3-4 中長期環境目標	15
3-5 取組期間の環境目標と実績	16
3-6 環境活動計画と取組結果	17
3-7 環境負荷低減への取組の評価	19
3-8 各学部の環境への取組	25
3-9 教育・研究における環境への取組	26
3-10 地域・社会への還元	31
4. 環境関連法規等の遵守状況	37
5. 代表者による全体の評価と見直し	38

1. 沖縄国際大学環境方針

沖縄国際大学環境方針

基本理念

沖縄県の自然環境は、亜熱帯海洋性気候で多数の島々から成り立っています。そして、やんばるの森に代表されるように、島ごとに固有の生物種が数多く生息する独自の生態系を形成しています。加えて、島々で暮らす人々の営みが独特の文化・歴史・社会を築いてきました。

本学は開学以来、それらの恩恵に浴しながら育まれてきました。それゆえに、本学は自然環境の保全に努め地域の文化・歴史・社会を大切に、次世代に引き継ぐ責務を有すると考えます。よって、本学は自然環境や地域特性等に配慮しながら教育研究活動に伴う環境負荷の低減に努め、地域との共生を図り、社会的責任を担うべく様々な方策を模索し、計画の策定、実施、確認、評価・見直しにより学内外の環境問題に適切に対応していくよう努めます。

併せて、21世紀の多様な現代社会において持続的発展可能な循環型社会、自然共生社会、低炭素社会の構築に貢献できる高い見識を身につけた次世代を担う人材を育成することを目指します。

環境方針

本学は、基本理念を実現するために、以下の活動に積極的に取り組みます。

- 1 省エネルギー、廃棄物の削減及び節水等に努め、汚染の防止、環境負荷の低減に取り組みます。
- 2 環境保全・再生に関する教育研究を実践し、環境意識の高い人材を育成します。
- 3 環境に関する公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
- 4 PDCAサイクル活動を実施し、環境経営システムの継続的な改善を図ります。
- 5 環境方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、環境保全に取り組むとともに、定期的な見直しを行います。
- 6 環境に関する法規制、条例、協定、学内規定等を遵守します。
- 7 環境方針や環境活動を学生・教職員及び一般社会へ公開します。

平成21年1月21日

沖縄国際大学 学長

富川 登武

2-2 学部学科紹介（各学部における人材の養成と教育上の目的）

○ 法 学 部

法学部は、国家と法・政治と社会のあり方を考究することを通じて正義・衡平感覚を涵養することを教育研究上の目的とし、豊かな知識と見識を身につけた人材を養成する。

■ 法律学科

法律学科は、わが国の法制度の理解を教育研究上の目的とし、論理的に考えて妥当な結論を導ける人材を養成する。

■ 地域行政学科

地域行政学科は、21 世紀の高度化かつ多様化する社会において必要とされる基礎的技能を習得させることを教育研究上の目的とし、法律を基礎に行政・民間部門における政策の企画、実務処理のできる人材を養成する。

○ 経 済 学 部

経済学部は、社会経済の自立と持続そして発展に寄与することを教育研究上の目的とし、社会の経済と環境について専門的知識を有する教養ある人材を養成する。

■ 経済学科

経済学科は、社会経済の自立と国際社会の発展に寄与することを教育研究上の目的とし、世界的視野と理論的思考能力を兼備した人材を育成する。

■ 地域環境政策学科

地域環境政策学科は、持続的な地域社会の発展に貢献することを教育研究上の目的とし、環境と経済に関する幅広い専門的知識を有し、それぞれの活動の場で主体的、指導的に活躍できる人材を育成する。

○ 産 業 情 報 学 部

産業情報学部は、情報化、国際化が進展する潮流の下、「個性と創造性の尊重」、「自律的学習態度の育成」、「倫理観等人間性教育の重視」、「基礎理論・基本技術に基づく専門教育と研究の高度化」、そして、「地域の自立と国際性の涵養」等を教育研究の目的とし、IT(情報技術)を用いた高度な情報活用能力等の陶冶を通じて、地域産業分野を活性化し又は創造できる情報化人材の育成、並びに、企業経営における高度な経営情報分析能力や国際的ビジネス感覚等を身につけたビジネススペシャリスト等を養成する。

■ 企業システム学科

企業システム学科は、「マーケティング及び経営学、会計学の各分野の論理的・体系的思考能力の修得」、「学際的で国際的な広い視野の涵養」、「情報処理技術を用いた実践的方法論を駆使できる能力の向上」等を教育研究上の目的とし、企業環境の変化に柔軟に対処できる基礎知識と応用力、そして、高度な情報処理分析能力・国際的な感覚を併せ持つビジネスのプロを養成する。

2-2 学部学科紹介（各学部における人材の養成と教育上の目的）

■産業情報学科

産業情報学科は、「産業社会に必要な実践的な情報化教育」、「産業の情報化を推進し又は情報の産業化を先導し得る先進的な教育研究」、「沖縄地域の産業振興並びに国際社会の発展への寄与」等を教育研究上の目的とし、情報化が進展する中、産業社会が必要とする専門的知識と情報技術のスキル等を身につけ、柔軟かつ総合的な判断が行える人材、そして、高度情報化社会をリードし、ビジネスの創出など、産業の振興を担える人材を養成する。

○ 総合文化学部

総合文化学部は、人間・社会・文化を総合的に理解することを教育研究上の目的とし、豊かな知性と感性を持つ人材を養成する。

■日本文化学科

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化の理解を教育研究上の目的とし、現代社会の国際化・情報化に対応する人材を養成する。

■英米言語文化学科

英米言語文化学科は、英語圏の言語・社会・文化を総合的・多角的に理解することを教育研究上の目的とし、国際化・情報化の流れの中でその役割を十分に果たすことのできる人材を養成する。

■社会文化学科

社会文化学科は、比較文化的観点に立脚し、フィールドワークに基づいた南島地域研究を教育研究上の目的とし、地域理解能力と社会的コミュニケーション能力に長けた、問題解決型の人材を養成する。

■人間福祉学科

人間福祉学科は、多様化する現代社会の仕組みと人間の心の動きの理解を教育研究上の目的とし、社会福祉学や心理学の理論を基礎とする実践的な教育を通して、21世紀の高度化・国際化する社会の福祉、医療、教育等の諸分野で活躍できる幅広い教養と技術を身につけた人間性豊かな人材を養成する。

□社会福祉専攻

社会福祉専攻は、現代社会において深刻化する個人・社会に関わる福祉問題の解明を教育研究上の目的とし、社会福祉学に関する専門的知識・技能を修得し、様々な分野でより豊かな福祉社会の構築に貢献できる人材を養成する。

□心理カウンセリング専攻

心理カウンセリング専攻は、複雑化する社会における人間の心の働きを理解を教育研究上の目的とし、心理学の専門知識と技法に基づく対人援助力を身につけ、人々が人間性豊かに生きてゆくことを支援する広い視野と深い見識を持つ人材を養成する。

CAMPUS MAP

キャンパスマップ



本学施設概要

- | | | |
|---|-----------------------------------|--|
| ① 本館
(事務棟) | ② 3号館
(講義棟) | ③ 3号館別館
(講義棟) |
| ④ 5号館
(講義室、研究室、PC教室) | ⑤ 講堂兼体育館(6号館) | ⑥ 7号館
(講義棟) |
| ⑦ サークル棟(8号館) | ⑧ 9号館
(講義室、研究室、事務室) | ⑨ 厚生会館(10号館)
(後援会事務室、校友会事務室)
(書店、学食、喫茶室、ホール) |
| ⑩ 図書館(12号館) | ⑪ 13号館
(模擬法廷、PC教室、講義室、研究室、事務室) | |
| ⑫ 東村セミナーハウス
(宿泊室、多目的ホール兼研修室、食堂、多目的広場、テニスコート) | | |

理事長・学長

- 事務局長**
 - 経営政策室**
 - 総務部**
 - 広報企画課
 - 総務課
 - 会計課
 - 管財課
 - 教務部**
 - 教学課
 - 学務課
 - 外国語センター**
 - 研究支援課
 - 学生部**
 - 学生課
 - キャリア支援課
 - 図書館**
 - 図書課
 - 入試センター**
 - 事務室
 - 国際交流センター**
 - 事務室
 - 情報センター**
 - 事務室
- 常務理事**
- 副学長**

総合研究機構

- 南島文化研究所
- 産業総合研究所
- 沖縄法政研究所
- 沖縄経済環境研究所

法学部

- 法律学科
- 地域行政学科

経済学部

- 経済学科
- 地域環境政策学科

産業情報学部

- 企業システム学科
- 産業情報学科

総合文化学部

- 日本文化学科
- 英米言語文化学科
- 社会文化学科
- 人間福祉学科
 - 社会福祉専攻
 - 心理リハビリテーション専攻

地域文化研究科

- 南島文化専攻
- 英米言語文化専攻
- 人間福祉専攻

地域産業研究科

- 地域産業専攻

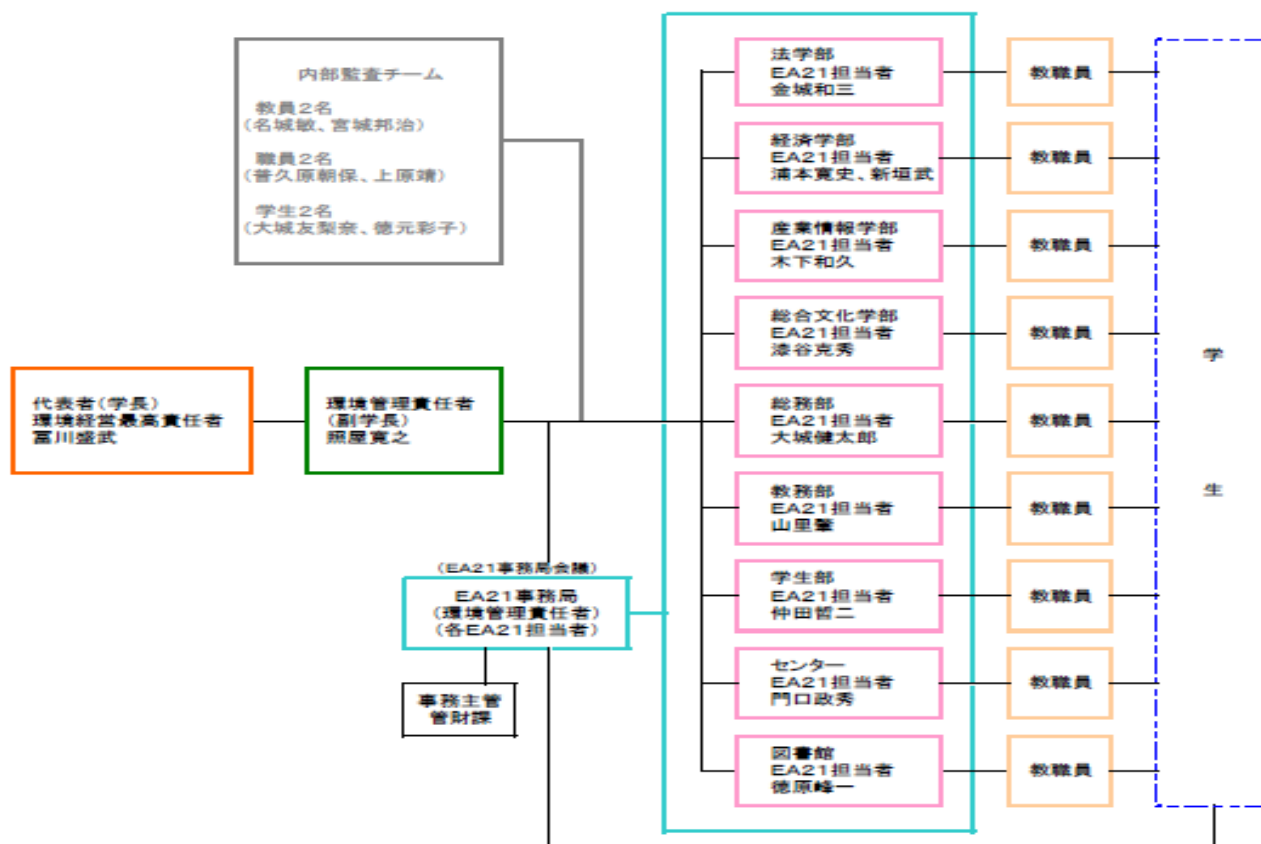
法学研究科

- 法律学専攻

がエコアクション21対象範囲 (沖縄国際大学全組織がエコアクション21対象)

3. 環境マネジメントシステムの状況と環境への取組

3-1 沖縄国際大学 エコアクション21 (EA21) 実施体制



実施体制の役割等

役職等		役割及び権限等の概要
代表者 環境経営最高責任者	学 長	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。 当該責任者には、現在の責務に関わりなく、責任と権限を明示する。 ②環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営資源(人員・設備・費用等)を準備する。 ③環境経営に関する基本理念・長期戦略・基本方針を制定し、基本的な環境目標を設定する。 ④環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要あれば改訂を指示する。
環境管理責任者	副 学 長	①環境経営に関する経営資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために、環境経営に関する環境管理事務局を運営する。 ②環境経営システムの構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、その構築・運用に関する情報を最高責任者に報告する。
EA21事務局	環境管理責任者、 EA21担当者	PDCA活動を実施することによりEA21の継続的な改善を図る。
EA21担当者	各学部及び事務局 各部から選出	選出部署への環境方針、環境目標及び環境活動計画の周知徹底及びPDCA活動の統括を図る。
教 職 員		環境方針、環境目標及び環境活動計画を熟知し、それらの達成に向けて環境活動計画を誠実に履行する。
学 生		大学において、環境に関する教育の主たる対象であり、環境負荷の主な発生源であることを自覚し、環境方針、環境目標及び環境活動計画を熟知するとともに積極的に参画し、それらの達成に向けて環境活動計画を誠実に履行する。
内部監査チーム	教職員及び学生により構成 (EA21事務局にて任命)	①環境経営システムがEA21ガイドラインの要求事項及び本学が定めたルールに適合しているか。環境目標が達成されているか。環境活動計画が適切に実施され、環境パフォーマンスが向上しているかを監査する。 ②内部監査の結果は、学長及び副学長に報告する。

3-2 環境への主な取組と負荷の全体像（2008年度：2008.4～2009.3）

<教育・研究における環境への取組>

■環境経営関連の教育 ■環境経営関連の研究 ■産官学連携による環境経営に関する共同研究 等

<キャンパス環境の保全・改善等に関する取組>

■キャンパス等における自然環境保全 ■環境に配慮したキャンパスライフの構築

<インプット>

■エネルギー

総エネルギー：60,450,241 (MJ)

購入電力：5,991,129 (kWh)

化石燃料

灯油：2,814 (L)

A重油：125 (L)

LPGガス：1,970 (kg)

ガソリン：11,944 (L)

軽油：2,575 (L)

■資源

・用紙類：6,119,230 (枚)

(購入量として把握)

・グリーン購入(用紙類)：57 (%)

・図書：13,304 (冊)

・雑誌：790 (タイトル)

・新聞：38 (タイトル)

(図書、雑誌、新聞については図書館での購入分として把握)

■水資源

上水：18,744 (m³)

地下水・雨水：13,337 (m³)

沖縄国際大学

(教育・研究活動)

□敷地面積

大学キャンパス：118,296 (m²)

東村セミナーハウス：44,918 (m²)

□建物延床面積

大学キャンパス：51,245 (m²)

東村セミナーハウス：1,395 (m²)

□教職員数(2008.5.1現在)

専任教員：130名

非常勤教員：255名

専任職員：80名

非常勤職員：10名

(定数外職員含む)

セミナーハウス管理：3名

□学生数(2008.5.1現在)

学部生：5,760名

大学院生：97名

<アウトプット>

■温室効果ガス

二酸化炭素排出量：

5,715,361 (kg-CO₂)

■化学物質

PRTR法に基づく化学物質保管量

・第一種指定：2,200g+3,000ml

・その他：7,600g+4,000ml

■廃棄物

○一般廃棄物：127.8 (t)

(紙類、飲料容器、落ち葉、不燃ごみ等)

※2008年度の一般廃棄物については、回収業者との契約量として把握

○産業廃棄物：27.6 (t)

(木くず、金属くず、廃プラ等)

■排水

総排水量：32,081 (m³)

(排水量については上水及び地下水・雨水の使用量に同じ)

<地域・社会への還元>

■学生の輩出

・環境マインドの高い卒業生

・環境に関する(専門)知識を有する卒業生

■環境に関するコミュニケーション

・研究成果の公表、普及、社会への還元

・環境関連の公開講座、出前講座等

■地域・社会に向けての環境活動・環境関連団体等への参加、支援等

3-3 環境負荷の状況（インプット項目）

① 総エネルギー投入量

2007年度、2008年度の総エネルギー投入量は以下のとおりです。本学の総エネルギー投入量の内訳をみると、99%を電力が占めています。空調及び照明、OA機器等が主な電力の用途です。

また電力使用量を表したグラフをみると、2007年度、2008年度とも7月を頂点に使用量が増加し、8、9月の夏期休暇で減少、後期開始の10月にまた増加しています。これは空調利用による電力消費に比例しているものと推察されます。

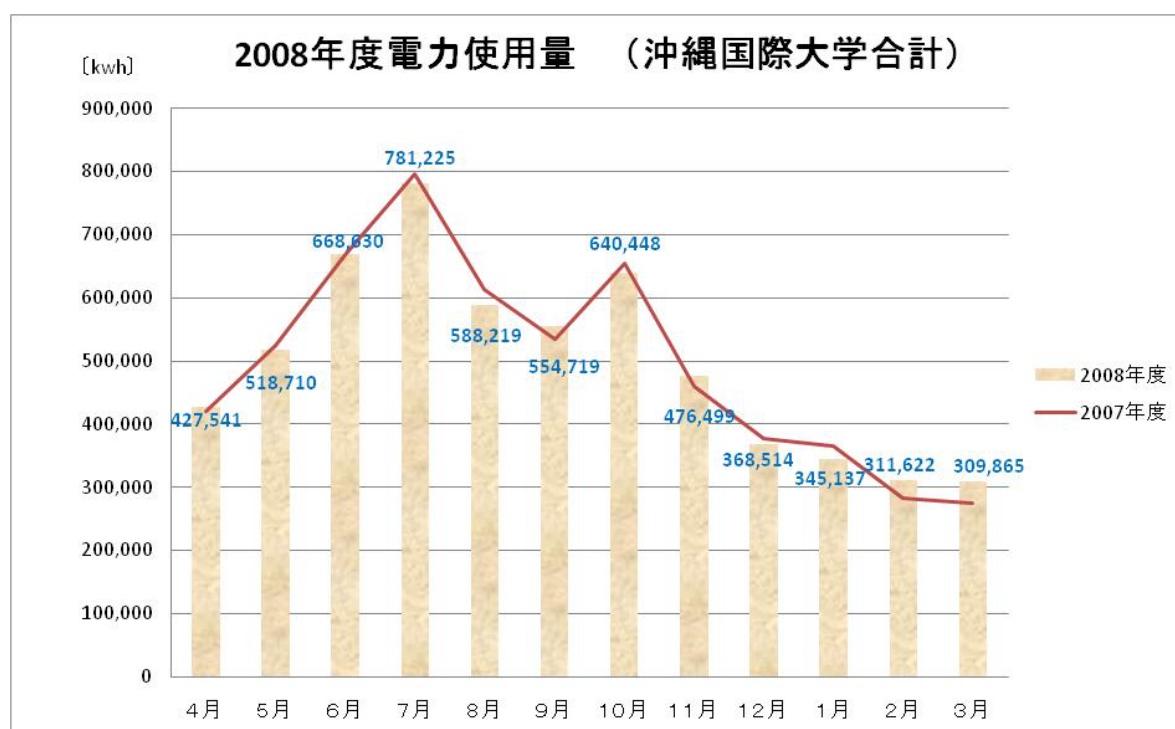
■沖縄国際大学合計（大学キャンパス＋東村セミナーハウス）

			単位	2007年度			2008年度			単位発熱量 (B)
				使用量・消費 量 (A)	エネルギー量 (MJ) (A×B)	割合 (%)	使用量・消費 量 (A)	エネルギー量 (MJ) (A×B)	割合 (%)	
総エネルギー投入量	購入電力	購入電力	kWh	5,972,232	59,543,153	98.836	5,991,129	59,731,556	98.811	9.97(MJ/kWh)
		購入電力合計	MJ		59,543,153			59,731,556		
	化石燃料	灯油	L	3,338.8	122,534	0.203	2,814	103,274	0.171	36.7(MJ/L)
		A重油	L	470	18,377	0.031	125	4,888	0.008	39.1(MJ/L)
		LPガス	kg	302.841	15,203	0.025	1,969.812	98,885	0.164	50.2(MJ/kg)
		ガソリン	L	13,022.38	450,574	0.748	11,944.46	413,278	0.684	34.6(MJ/L)
		軽油	L	2,480	94,736	0.157	2,574.88	98,360	0.163	38.2(MJ/L)
		化石燃料合計	MJ		701,424	1.164		718,685	1.189	
	総エネルギー合計		MJ		60,244,577	100		60,450,241	100	

OLPガスの消費量を気体（m³）として把握しているため、1m³=2.07kgとして換算しています。

○購入電力の単位発熱量の出所は、エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則第四条別表第三です。

○化石燃料に関する単位発熱量の出所は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条別表第一です。



3-3 環境負荷の状況（インプット項目）

□大学キャンパス

			単位	2007 年度			2008 年度			単位発熱量 (B)
				使用量・消費 量 (A)	エネルギー量 (MJ) (A×B)	割合 (%)	使用量・消費 量 (A)	エネルギー量 (MJ) (A×B)	割合 (%)	
総エネルギー投入量	購入電力	購入電力	kWh	5,867,676	58,500,730	98.847	5,875,020	58,573,949	98.964	9.97(MJ/kWh)
		購入電力合計	MJ		58,500,730			58,573,949		
	化石燃料	灯油	L	3,338.8	122,534	0.207	2,814	103,274	0.174	36.7(MJ/L)
		A重油	L	470	18,377	0.031	125	4,888	0.008	39.1(MJ/L)
		LPガス	kg	302.841	15,203	0.026	258.543	12,979	0.022	50.2(MJ/kg)
		ガソリン	L	12,473.53	431,584	0.729	11,370.86	393,432	0.665	34.6(MJ/L)
		軽油	L	2,480	94,736	0.160	2,574.88	98,360	0.166	38.2(MJ/L)
		化石燃料合計	MJ		682,434	1.153		612,932	1.036	
	総エネルギー合計		MJ		59,183,164	100		59,186,882	100	

□東村セミナーハウス

(ただし、2007年度の東村セミナーハウスのLPガス使用量については把握していない。)

			単位	2007 年度			2008 年度			単位発熱量 (B)
				使用量・消費 量 (A)	エネルギー量 (MJ) (A×B)	割合 (%)	使用量・消費 量 (A)	エネルギー量 (MJ) (A×B)	割合 (%)	
総エネルギー投入量	購入電力	購入電力	kWh	104,556	1,042,423	98.211	116,109	1,157,607	91.629	9.97(MJ/kWh)
		購入電力合計	MJ		1,042,423			1,157,607		
	化石燃料	灯油	L	0	0	0	0	0	0	36.7(MJ/L)
		A重油	L	0	0	0	0	0	0	39.1(MJ/L)
		LPガス	kg	—	—	—	1,711.269	85,906	6.800	50.2(MJ/kg)
		ガソリン	L	548.85	18,990	1.789	573.60	19,847	1.571	34.6(MJ/L)
		軽油	L	0	0	0	0	0	0	38.2(MJ/L)
		化石燃料合計	MJ		18,990	1.789		105,752	8.371	
	総エネルギー合計		MJ		1,061,414	100		1,263,359	100	

② 物質投入量

2007年度、2008年度の本学での物質投入量は以下の項目、単位で把握しました。

用紙類（コピー用紙、印刷用紙、カラー用紙）は各事務室等での実使用量の把握が困難なため、購入数で把握しています。図書、雑誌、新聞については本学図書館での受入分です。OA機器については、2007、2008年度についてはリース機器であり、廃棄についても本学での廃棄（排出）はないため、本項目から除いています。

		単位	2007 年度実績	2008 年度実績
物質投入量	用紙類	枚	6,240,500	6,119,230
	図書	冊	14,900	13,304
	雑誌	タイトル	858	790
	新聞	タイトル	39	38

※2008年度用の紙類のグリーン購入枚数は3,515,230枚で、グリーン購入率は57%です。

3-3 環境負荷の状況（インプット項目）

③ 水資源投入量

東村セミナーハウスの水資源は上水のみです。利用者数により、年度月毎においての変動があります。

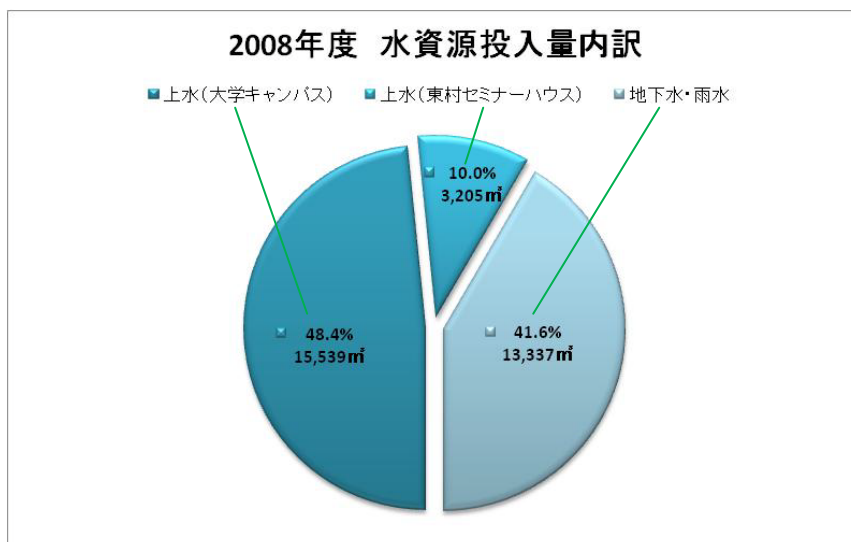
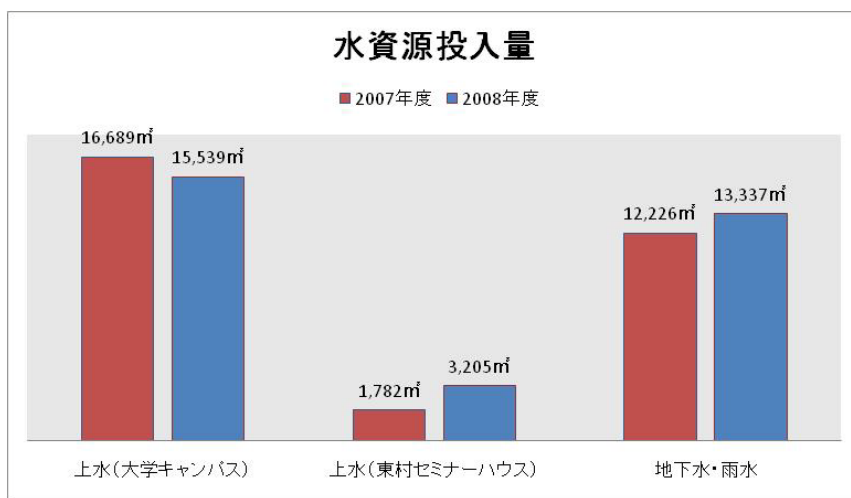
また、大学キャンパスの水資源は、上水だけでなく、地下水・雨水も利用しています。地下水・雨水は主にトイレの洗浄水、空調のクーリングタワー補給水、花壇等の散水等に利用されています。

2007年度、2008年度の水資源投入量は以下のとおりです。

■沖縄国際大学合計（大学キャンパス＋東村セミナーハウス）

		単位	2007 年度		2008 年度	
			実績 (m ³)	割合 (%)	実績 (m ³)	割合 (%)
水資源投入量	上水（大学キャンパス）	m ³	16,189	53.6	15,539	48.4
	上水（東村セミナーハウス）	m ³	1,782	5.9	3,205	10.0
	上水合計	m ³	17,971	59.5	18,744	58.4
	地下水・雨水	m ³	12,226	40.5	13,337	41.6
	合計	m ³	30,197	100	32,081	100

〇1L=0.001m³、1m³=1,000L



3-3 環境負荷の状況（アウトプット項目）

④ 温室効果ガス排出量

本学は「エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）」に基づく、第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。2007 年度、2008 年度の大学の二酸化炭素排出量については、以下のとおりです。電力消費によるものがほぼ 9 9 % であり、総エネルギー投入量の割合と連動していることがわかります。

■沖縄国際大学合計（大学キャンパス＋東村セミナーハウス）

			単位	2007 年度			2008 年度			排出係数 (B)	単位発熱量 (C)
				消費量 (A)	排出量 (kg-CO ₂) (A) × B) or (A × B × C)	割合 (%)	消費量 (A)	排出量 (kg-CO ₂) (A) × B) or (A × B × C)	割合 (%)		
総エネルギー投入量	エネルギー消費	購入電力	kWh	5,972,232	5,649,731	99.171	5,991,129	5,667,608	99.164	0.946 (kg-CO ₂ /kWh)	9.97 (MJ/kWh)
		灯油	L	3,338.8	8,320	0.146	2,814	7,012	0.123	0.0679 (kg-CO ₂ /MJ)	36.7 (MJ/L)
		A重油	L	470	1,274	0.022	125	339	0.006	0.0693 (kg-CO ₂ /MJ)	39.1 (MJ/L)
		LPガス	kg	302.841	909	0.016	1,969.812	5,913	0.103	0.0598 (kg-CO ₂ /MJ)	50.2 (MJ/kg)
		ガソリン	L	13,022.38	30,234	0.531	11,944.46	27,731	0.485	0.0671 (kg-CO ₂ /MJ)	34.6 (MJ/L)
		軽油	L	2,480	6,508	0.114	2,574.88	6,757	0.118	0.0687 (kg-CO ₂ /MJ)	38.2 (MJ/L)
		化石燃料合計			47,245	0.829		47,753	0.836		
	二酸化炭素合計				5,696,976	100		5,715,361	100		

OLPGの消費量を気体（m³）として把握しているため、1m³=2.07kgとして換算しています。

○購入電力の単位発熱量の出所は、エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則第四条別表第三です。

○化石燃料に関する排出係数及び単位発熱量の出所は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条別表第一です。なお、前述の排出係数は炭素換算値のため、本チェックシートでは、44/12 を乗じて CO₂ 換算値にしております。

○購入電力の排出係数 0.946 については、沖縄電力（株）の CO₂ 実排出係数（2008 年度実績：2009 年 12 月 28 日公表）による。

□大学キャンパス

			単位	2007 年度			2008 年度			排出係数 (B)	単位発熱量 (C)
				消費量 (A)	排出量 (kg-CO ₂) (A) × B) or (A × B × C)	割合 (%)	消費量 (A)	排出量 (kg-CO ₂) (A) × B) or (A × B × C)	割合 (%)		
総エネルギー投入量	エネルギー消費	購入電力	kWh	5,867,676	5,550,821	99.179	5,875,020	5,557,769	99.263	0.946 (kg-CO ₂ /kWh)	9.97 (MJ/kWh)
		灯油	L	3,338.8	8,320	0.149	2,814	7,012	0.125	0.0679 (kg-CO ₂ /MJ)	36.7 (MJ/L)
		A重油	L	470	1,274	0.023	125	339	0.006	0.0693 (kg-CO ₂ /MJ)	39.1 (MJ/L)
		LPガス	kg	302.841	909	0.016	258.543	776	0.014	0.0598 (kg-CO ₂ /MJ)	50.2 (MJ/kg)
		ガソリン	L	12,473.53	28,959	0.517	11,370.86	26,399	0.471	0.0671 (kg-CO ₂ /MJ)	34.6 (MJ/L)
		軽油	L	2,480	6,508	0.116	2,574.88	6,757	0.121	0.0687 (kg-CO ₂ /MJ)	38.2 (MJ/L)
		化石燃料合計			45,970	0.821		41,284	0.737		
	二酸化炭素合計				5,596,792	100		5,599,053	100		

3-3 環境負荷の状況（アウトプット項目）

□東村セミナーハウス

（ただし、2007年度の東村セミナーハウスのLPG使用量については把握していない。）

			単位	2007年度			2008年度			排出係数 (B)	単位発熱量 (C)
				消費量 (A)	排出量 (kg-CO ₂) (A) × B) or (A × B × C)	割合 (%)	消費量 (A)	排出量 (kg-CO ₂) (A) × B) or (A × B × C)	割合 (%)		
総エネルギー投入量	エネルギー消費	購入電力	kWh	104,556	98,910	98.728	116,109	109,839	94.438	0.946 (kg-CO ₂ /kWh)	9.97 (MJ/kWh)
		灯油	L	0	0	0	0	0	0	0.0679 (kg-CO ₂ /MJ)	36.7 (MJ/L)
		A重油	L	0	0	0	0	0	0	0.0693 (kg-CO ₂ /MJ)	39.1 (MJ/L)
		LPGガス	kg	—	—	—	1,711.269	5,137	4.417	0.0598 (kg-CO ₂ /MJ)	50.2 (MJ/kg)
		ガソリン	L	548.85	1,274	1.272	573.60	1,332	1.145	0.0671 (kg-CO ₂ /MJ)	34.6 (MJ/L)
		軽油	L	0	0	0	0	0	0	0.0687 (kg-CO ₂ /MJ)	38.2 (MJ/L)
		化石燃料合計			1,274	1.272		6,469	5.562		
		二酸化炭素合計			100,184	100		116,308	100		

⑤ 化学物質保管量・排出量・移動量等

本学保管の化学物質については、講義（実験等）で用いる水質分析関連等の試薬が主です。

PRTR法に基づき、PRTR法対象物質及びその他の化学物質については、本学担当教員により厳格に保管、管理されています。使用済みの廃液、廃試薬等の廃棄（排出）については、全て特別管理産業廃棄物として、専門の処理業者に回収を依頼しており、大気、水域、土壌等、環境への排出（漏洩）はありません。したがって、使用量がPRTR法に基づく、「当該事業所の外への移動（量）」となりますが、2008年度は回収依頼はなく、移動（量）はありません。（使用済みの廃液、廃試薬等は、回収処理されるまでの間、厳重に保管され、必要に応じて専門の処理業者に回収を依頼します。）

PRTR法に定める第一種指定化学物質の2008年度本学保管量は以下のとおりです。

物質名	保管量 (g)	保管量 (mL)
アジ化ナトリウム	100	
塩化第二鉄	1,000	
過マンガン酸カリウム	500	
硝酸銀	100	
ヘキサン		3,000
硫酸マンガン	500	
その他化学物質	7,600	4,000

3-3 環境負荷の状況（アウトプット項目）

⑥ 廃棄物排出量

2008年度は一般廃棄物量の計量を実施しておらず、実際の廃棄物排出量の把握ができないため、2008年度は回収業者との契約量である127,750kgをもって一般廃棄物排出量としています。

2008年度の産業廃棄物の排出量は27,630kgであり、主な内容は木くず、金属くずです。マニフェスト（産業廃棄物管理票）により管理されており、木くずは回収業者により焼却処理され、埋め立てられています。金属くず、ガラス、廃プラは業者により、分解、選別、粉碎等の処理がなされ、リサイクル化され、再利用できない灰等については埋め立て処理されています。また2008年度の特別管理産業廃棄物の排出はありません。

大学キャンパスでは、2009年7月より廃棄物の計量を開始し、廃棄物量の把握、減量に努めています。リサイクルできないごみ〔可燃ごみ、不燃ごみ〕及び、資源ごみ〔ペットボトル（ふた、ラベルは可燃ごみ）、アルミ缶、スチール缶、ビン類、紙類（印刷・コピー用紙、雑誌、書籍、チラシ、新聞紙、段ボール等）〕を分別し、計量しています。

また、東村セミナーハウスにおいては、燃やしてよいごみ、燃やしていけないごみ、資源ごみ〔ペットボトル、缶類、ビン類、小型二次電池〕、粗大ごみ等、東村のごみ分別に従い、ごみの減量化、資源化に取り組んでいます。

⑦ 総排水量

本学の大学キャンパスの排水は、水資源（上水および地下水・雨水）使用後、公共下水道に排水されています。実際には花壇等への散水や、空調のクーリングタワー等での利用による空中飛散があり、総排水量は水資源投入量より少ないと思われますが、本学の大学キャンパスの総排水量は水資源投入量と同じ量として把握しています。また、東村セミナーハウスの排水については、公共下水道未整備のため、浄化槽にて浄化後、放流されており、「総排水量」＝「水資源投入量」とみなしています。

従って、大学キャンパスの2007年度の総排水量は28,415(m³)、2008年度の総排水量は28,876(m³)、また、東村セミナーハウスの2007年度の総排水量は1,782(m³)、2008年度の総排水量は3,205(m³)としています。

□大学キャンパス

		単位	2007年度		2008年度	
			実績 (m ³)	割合 (%)	実績 (m ³)	割合 (%)
水資源投入量	上水	m ³	16,189	57.0	15,539	53.8
	地下水・雨水	m ³	12,226	43.0	13,337	46.2
	合計	m ³	28,415	100	28,876	100

□東村セミナーハウス

		単位	2007年度		2008年度	
			実績 (m ³)	割合 (%)	実績 (m ³)	割合 (%)
水資源投入量	合計（上水のみ使用）	m ³	1,782	100	3,205	100

3-4 中長期環境目標

2008 年度を基準年度とし、2010～2012 年度の目標を定めました。必要に応じて見直していく予定です。

活動 内容	環境目的		単位 (区分)	基準年度 (2008 年度)	目 標			
					2010 年度 基準年度比 (%)	2011 年度 基準年度比 (%)	2012 年度 基準年度比 (%)	
エネルギー投入	二酸化炭素排出量抑制	CO ₂ 排出量削減		kg-CO ₂	5,715,361	5,658,207 (－ 1 %)	5,601,054 (－ 2 %)	5,543,900 (－ 3 %)
		電力消費量削減		kWh	5,991,129	5,931,218 (－ 1 %)	5,871,306 (－ 2 %)	5,811,395 (－ 3 %)
		化石燃料消費量削減	灯油	L	2,814	2,786 (－ 1 %)	2,758 (－ 2 %)	2,730 (－ 3 %)
			A 重油	L	125	124 (－ 1 %)	123 (－ 2 %)	121 (－ 3 %)
			LP ガス	kg	1,970	1,950 (－ 1 %)	1,931 (－ 2 %)	1,911 (－ 3 %)
			ガソリン	L	11,944	11,825 (－ 1 %)	11,705 (－ 2 %)	11,586 (－ 3 %)
			軽油	L	2,575	2,549 (－ 1 %)	2,524 (－ 2 %)	2,498 (－ 3 %)
物質投入(※ 1)	用紙類の使用量削減		枚	6,119,230	6,058,038 (－ 1 %)	5,996,845 (－ 2 %)	5,935,653 (－ 3 %)	
	グリーン購入の促進		%	グリーン購入 57% (用紙類)	グリーン購入 70% (用紙類)	グリーン購入 80% (用紙類)	グリーン購入 90% (用紙類)	
投入 水資源	節水、水の効率的利用		m ³	32,081	31,760 (－ 1 %)	31,439 (－ 2 %)	31,119 (－ 3 %)	
境美化 学内環	キャンパス内美化		－	－	週 1 回の一斉清掃 の実施	週 1 回の一斉清掃 の実施	週 1 回の一斉清掃 の実施	
廃棄物	廃棄物量の削減 (3 R の推進)		t	一般:127.8(※2) 産廃: 27.6	一般: 126.5 (－ 1 %) 産廃: 27.4 (－ 1 %)	一般: 125 (－ 2 %) 産廃: 27.1 (－ 2 %)	一般: 124 (－ 3 %) 産廃: 26.8 (－ 3 %)	
研究 環境教育・	環境教育に関わるカリキ ュラムの整備		－	61 科目開講 8,038 名受講	基準年度以上	基準年度以上	基準年度以上	
テム等の構築 環境経営シス	研修の実施		－	年度 1 回実施	年度 2 回実施	年度 2 回実施	年度 2 回実施	
	緊急時の訓練の実施		－	年度 1 回実施	年度 1 回実施	年度 1 回実施	年度 1 回実施	
学生参画の推進	エコ大学祭の実施		－	年度 1 回実施	年度 1 回実施	年度 1 回実施	年度 1 回実施	
	通学に係る環境への負荷 の削減		－	－	公共交通機関の利 用及び乗り合いの 呼びかけ	公共交通機関の利 用及び乗り合いの 呼びかけ	公共交通機関の利 用及び乗り合いの 呼びかけ	
啓発	環境に関する啓発ポスタ ー等の作成、掲示		－	－	講義室及び事務室 等に掲示する	講義室及び事務室 等に掲示する	講義室及び事務室 等に掲示する	

※1 コピー用紙、印刷用紙、カラー用紙を本項目の用紙類として集計。

※2 2008 年度の一般廃棄物量については計量、把握をしていないため、契約量で算出。

3-5 取組期間（2009.11～2010.1）の環境目標と実績

基準値を取組期間前年度同期間（2008 年 11 月～2009 年 1 月）とし、取組期間目標及び実績を以下に示します。

活動 内容	環境目的		単位 (区分)	基 準 値 取組期間前年度同期間 (2008.11～2009.1)	取組期間目標 (2009.11～2010.1)	取組期間実績 (2009.11～2010.1)
					基準値比 (%)	基準値比 (%)
① エネルギー投入	二酸化炭素排出量削減	CO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	1,138,389	1,127,005 (－1%)	1,285,735 (+12.9%)
		電力消費量削減	kWh	1,190,150	1,178,249 (－1%)	1,341,334 (+12.7%)
	化石燃料消費量削減	灯油	L	963	953 (－1%)	1,159 (+20.4%)
		A 重油	L	125	124 (－1%)	60 (－52.0%)
		LP ガス	kg	454	449 (－1%)	342 (－24.7%)
		ガソリン	L	3,135	3,104 (－1%)	4,924 (+57.1%)
		軽油	L	430	426 (－1%)	504 (+17.2%)
(※1) ② 物質投入	用紙類の使用量削減		枚	1,540,800	1,525,392 (－1%)	1,522,000 (－1.2%)
	グリーン購入の促進		%	グリーン購入 57% (用紙類)	用紙類のグリーン購入把握 グリーン購入 60% (用紙類)	用紙類のグリーン購入把握 グリーン購入 51% (用紙類)
投入 ③ 水資源	節水、水の効率的利用		m ³	7,728	7,651 (－1%)	7,670 (－0.8%)
境美化 ④ 学内環	キャンパス内美化		—	—	職員による一斉清掃の適 宜実施	職員による一斉清掃の 週 1 回の実施
⑤ 廃棄物	廃棄物量の削減 (3R の推進)		t	(※2) 一般廃棄物：約 32t (産業廃棄物：約 6.8t)	廃棄物量の計量、把握 廃棄物量の削減 分別の周知、徹底	一般廃棄物：約 20.5t (産業廃棄物：約 8.3t)
育・研究 ⑥ 環境教	環境教育に関わるカリキュラ ムの整備		—	(2008 年度開講) 61 科目開講 8,038 名受講	前年度以上	(2009 年度開講) 68 科目開講 8,490 名受講
ム等の構築 ⑦ 環境経営システ	研修の実施		—	—	2 回実施	2 回実施 (1 回は 2 月に実施)
	緊急時の訓練の実施		—	1 回実施	1 回実施	1 回実施
の推進 ⑧ 学生参画	エコ大学祭の実施		—	1 回実施	1 回実施	1 回実施
	通学に係る環境への負荷の削減		—	—	公共交通機関の利用及び 乗り合いの呼びかけ	公共交通機関の利用及び 乗り合いの呼びかけ
⑨ 啓発	環境に関する啓発ポスター等 の作成、掲示		—	—	講義室及び事務室等に掲 示	講義室及び事務室等に掲 示

(①③⑤は必須項目) ※1. コピー用紙、印刷用紙、カラー用紙を用紙類として集計。

※2. 2008 年度一般廃棄物量については計量、把握をしていないため、契約量で算出。

3-6 環境活動計画と取組結果

取組期間（2009 年 11 月～2010 年 1 月）の環境活動計画及び取組結果は以下のとおりです。

（ 取組んでいる・・・・・・○ さらに取組が必要・・・・・・△ 取組んでいない・・・・・・× ）

活動内容	環境目的	活動計画	取組結果	今後の対応、改善等
①エネルギー投入	電力、ガス消費量の削減、 二酸化炭素排出量の抑制	不在時・未使用時消灯の励行	○	・エコドライブの推進について、校用車の運転席から見える箇所にエコドライブ推進シールを貼付し、推進しているが、啓発としては不十分である。さらに研修等の中でエコドライブ等の有効性を説明、啓発し、自動車燃料使用量の削減に努めるとともに、二酸化炭素排出量の抑制につなげたい。
		冷房設定温度の適温化（28℃程度）	○	
		空調機フィルター等の定期的な清掃（個別空調）	○	
		夏季軽装の励行	○	
		出入口ドアの開閉チェック	○	
		待機時消費電力の低減（パソコン、エアコン等）	○	
		エレベーターの夜間等の部分的停止	○	
		階段利用の励行	○	
		ガス湯沸かし器の使用の見直し	○	
②物質投入	用紙類の使用量削減	エコドライブの推進	△	・用紙類の使用量削減については認知されているが、まだ徹底されていない。研修を通してさらに各学部、部署での裏面再利用、両面コピーを徹底したい。また資料のスリム化及び電子化等をさらに推進したい。
		メール活用によるペーパーレス化	○	
		会議等資料のスリム化	△	
		両面コピー・印刷の徹底	△	
	グリーン購入の促進	使用済み用紙の裏面再利用	△	・現在紙類を中心にグリーン購入の推進を図っているが、今後その他備品・消耗品等もグリーン購入を検討する。まずは購入状況の把握に努めたい。
③水資源投入	節水、水の効率的利用	グリーン購入の促進	△	
		雨水利用	○	・さらに節水、効率的利用を推進する。
④学内環境美化	キャンパス内美化	地下水利用	○	
		緑化の推進	○	・定期的な学内一斉清掃を継続するとともに、学内環境美化をさらに推進する。
		花壇等の地下水・雨水による散水・除草(建物周り)	○	
⑤廃棄物	廃棄物量の削減（3Rの推進）	学内一斉清掃の実施	○	
		使用済み用紙リサイクルボックスの設置	△	・使用済み用紙リサイクルボックスについては、各学部、部署等、コピー機の側に設置しているが、「使用済み用紙リサイクルボックス」として活用されていないケースがあるため、再度各学部、部署に対して説明し、リサイクルを推進したい。
		会議時のマイコップ使用の普及	○	
		ゴミの分別回収の徹底	○	
		燃えるゴミ・生ゴミ発生量の抑制	○	
		新聞や定期刊行物等の購入を必要部数に限定することや、回覧利用方法を含め見直し	○	
		インク・トナーカートリッジ等のリサイクル化の促進	○	
		新聞・雑誌・用紙類のリサイクル化の促進	○	
		缶・びん・ペットボトル等のリサイクル化の促進	○	
		再使用可能物品の学内有効利用	○	

3-6 環境活動計画と取組結果

(取り組んでいる・・・○ さらに取組が必要・・・△ 取り組んでいない・・・×)

活動内容	環境目的	活動計画	取組結果	今後の対応、改善等
⑥ 環境教育・研究・環境保全活動等	環境教育・研究等	環境教育に関わるカリキュラムの整備	○	・カリキュラムのさらなる充実を図るとともに、研究の積極的な取り組みを実施する。
		環境経営に関わる研究の積極的な取り組み	○	
	地域社会との連携	環境に関する講演会の実施	○	・環境に関する講演会について、2010年度の「うまんちゅ講座」のテーマを「地域と環境ありんくりんー経済発展と快適環境の調和を目指してー」と題して地域と環境をテーマに講座を実施する。 ・地域社会との環境に関する連携、ボランティア活動等は、学生、または個人単位での参加、支援であったため、さらに連携を広げていきたい。
		地域との連携による環境活動の実施	△	
		ボランティア活動に対する支援	△	
⑦ 環境経営システム等の構築	実施体制の整備等	法規等に対応する手順の整備	△	・環境関連法規等については、常に最新情報を入手するとともに、遵守状況の把握に努めたい。 ・研修についてはフォローアップも含め、より充実できるよう各学部にて計画し実施する予定である。 ・必要な手順や基準等については、本学「環境経営マニュアル」の内容が現状に則していない箇所等見られたため、定期的に見直しを実施する。 ・学外からの意見や苦情等については、各学部、部署で受付し、関連部署等へ連絡、迅速な対応ができるよう検討したい。
		環境活動実施時の役割分担・権限等の明確化	○	
		研修の実施	△	
		必要な作業手順や運用基準等の整備	△	
		学外からの意見や苦情等に対応する仕組みの整備	△	
		緊急時の訓練の実施	○	
		取引先等への協力依頼	○	
⑧ 学生サークル等による環境活動	学生参画の推進	実施体制の支援	○	・公共交通機関の利用及び乗り合いの呼びかけを掲示板等で行っているが、さらに各窓口及び研修、講義等での呼びかけを検討したい。
		エコ大学祭の実施	○	
		フリーマーケットの実施	○	
		通学に係る環境への負荷の削減	△	
⑨ 啓発	環境に関する啓発	環境に関する啓発ポスター等の作成、掲示	○	・垂れ幕、横断幕等を作成し、啓発に努めるとともに、研修等でさらに啓発に努めたい。

3-7 環境負荷低減への取組の評価

① エネルギー投入

活動 内容	環境目的		単位	基準値 (2008.11～2009.1)	取組期間目標	取組期間実績
					基準値比 (%)	基準値比 (%)
① エネルギー投入	二酸化炭素排出量削減 化石燃料消費量削減	CO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	1,138,389	1,127,005 (－1%)	1,285,735 (+12.9%)
		電力消費量削減	kWh	1,190,150	1,178,249 (－1%)	1,341,334 (+12.7%)
		灯油	L	963	953 (－1%)	1,159 (+20.4%)
		A 重油	L	125	124 (－1%)	60 (－52.0%)
		LP ガス	kg	454	449 (－1%)	342 (－24.7%)
		ガソリン	L	3,135	3,104 (－1%)	4,924 (+57.1%)
		軽油	L	430	426 (－1%)	504 (+17.2%)

【評価】 A 重油、LP ガスを除く項目で基準値よりも増加し、結果、二酸化炭素排出量も増加する結果となった。A 重油は図書館の施設点検時に使用する非常用発電機の燃料であり、常時使用するものではないため、年度毎で変動が予想されるものである。LP ガスについてはガス湯沸かし器及びガスコンロの使用を見直し、3 号館、9 号館、管財課分室設置分を撤去し、使用中止したために減少した。また、灯油は体育館及びサクル棟内のシャワーで利用されている。シャワー使用について、一人当たりの利用時間の短縮や節水を促すことにより、減少を図りたい。ガソリン、軽油については、校用車の利用による消費である。大幅な増加となっているが、学外での業務等によるところが大きく、年度や月により変動が予想される。エコドライブを呼びかけ、無駄なアイドリング、急発進、急加速等を抑制することで消費量減少を促したい。本学の総エネルギー投入量及び、それに連動する二酸化炭素排出量の 99%は電力消費量によるものである。13 号館が竣工し、2009 年 4 月より稼働したことにより、前年度より増加したものと考えられる。E A21 活動により、減少できるように努力していきたい。

② 物質投入

活動 内容	環境目的	単位	基準値 (2008.11～2009.1)	取組期間目標	取組期間実績
				基準値比 (%)	基準値比 (%)
② 物質投入	用紙類の使用量削減	枚	1,540,800	1,525,392 (－1%)	1,522,000 (－1.2%)
	グリーン購入の促進	%	グリーン購入 57% (用紙類)	用紙類のグリーン購入把握 グリーン購入 60% (用紙類)	用紙類のグリーン購入把握 グリーン購入 51% (用紙類)

【評価】 本学の物質投入の主な項目は用紙類（コピー用紙、印刷用紙等）である。用紙類の購入については年度、月毎の差があるが、今回の取組期間において、用紙類購入量は、前年度同期間より－1%減少し、目標を達成した。今後も会議資料のスリム化や、メール等の活用、両面印刷等を積極的に推進し、さらに減少を図りたい。また本学では、事務用品等を購入する際は、品目に応じ、必要な機能面、また価格等から一部調達が困難な場合もあるが、できる限り環境に配慮した製品を購入するよう努めており、「グリーン購入法適合商品」「GPN データベース掲載商品」「エコマーク表示商品」等の表示があるもの、また、リサイクル商品、詰め替え、分別廃棄できるもの等を優先するようにしている。しかしながら本学において、購入数が最も多い物品である用紙類については、下表のとおり、古紙パルプ配合率、白色度等、グリーン購入の判断の基準に満たない物品を多く購入、使用していることがわかった。学内全体の共通理解を促し、また販売業者にも品質、品揃えの充実等、協力をお願いしたい。今後、機能、品質、予算等考慮した上で、グリーン購入を推進していきたい。

取組期間中の主な紙類の購入数及びグリーン購入率

分野	品目	単位	総購入数	グリーン購入数	グリーン購入率
紙類	コピー用紙	枚	603,500	95,500	15.8 (%)
	印刷用紙	枚	893,000	660,000	73.9 (%)
紙類	カラー用紙	枚	25,500	25,500	100 (%)
	トレットペーパー	ロール	7,680	7,680	100 (%)

3-7 環境負荷低減への取組の評価

③ 水資源投入

活動 内容	環境目的	単位	基 準 値 (2008. 11～2009. 1)	取組期間目標	取組期間実績
				基準値比 (%)	基準値比 (%)
③ 水資源投入	節水、水の効率的利用	m ³	7,728	7,651 (－1%)	7,670 (－0.8%)

【評価】 昨年度同時期と比較して、使用量が約1%減少した。水回り箇所に節水のステッカーを貼付したことで、水使用時の節水意識が高まったものと思われる。

下表は、取組期間及び前年同期間の水資源投入量を表している。本学の水資源は上水だけでなく、ほぼ半分を地下水・雨水が占めていることがわかる。地下水・雨水は主にトイレの洗浄水や空調のクーリングタワー、花壇等の散水で利用されている。地下水・雨水使用量の増加については、13号館稼働によるトイレ使用増が主要因と思われる。今後も、呼びかけ等して、節水及び効率的な利用に努めたい。

		単位	2008. 11～2009. 1		2009. 11～2010. 1	
			実績 (m ³)	割合 (%)	実績 (m ³)	割合 (%)
水資源投入量	上水	m ³	4,141	53.6	3,915	51.0
	地下水・雨水	m ³	3,587	46.4	3,755	49.0
	合計	m ³	7,728	100	7,670	100

④ 学内環境美化

環境整備工事や一斉清掃の実施により快適に過ごせる環境作りに取り組んでいる。美化、緑化に、より一層努めたい。

■一斉清掃の実施

教職員により週1回出勤時間前に学内及び周辺の清掃を行っています。



■環境整備

再生木を利用したパーゴラや、再生木のベンチ、テーブルを配置した東屋を設置しました。



再生木のベンチ、テーブル、花木等を学内に増やしています。

3-7 環境負荷低減への取組の評価

⑤ 廃棄物

活動 内容	環境目的	単位	基 準 値 (2008. 11～2009. 1)	取組期間目標	取組期間実績
				基準値比 (%)	基準値比 (%)
⑤ 廃棄物	廃棄物量の削減 (3Rの推進)	t	※一般廃棄物：約 32t (産業廃棄物：約 6.8t)	廃棄物量の計量、把握 廃棄物量の削減 分別の周知、徹底	一般廃棄物：約 20.5t (産業廃棄物：約 8.3t)

※2008 年度の一般廃棄物量については計量、把握をしていないため、契約量で算出。

■ゴミ分別 本学ではゴミの分別に積極的に取り組んでいます。



廃棄物等排出量 取組期間中の一般廃棄物排出量は以下のとおりです。

				11 月 (kg)	12 月 (kg)	1 月 (kg)	合計 (kg)	割合 (%)
廃棄物等排出量	一般廃棄物	紙類	新聞紙	238.9	159.0	365.6	763.5	3.7
			雑誌・書籍、用紙類	849.7	386.8	840.5	2,077.0	10.2
			段ボール	516.7	947.3	323.8	1,787.8	8.7
		アルミ缶		137.0	207.0	154.0	498.0	2.4
		スチール缶		346.0	420.4	432.8	1,199.2	5.9
		ビン		167.6	151.0	156.8	475.4	2.3
		ペットボトル		355.9	325.9	288.5	970.3	4.8
		その他可燃ごみ		3,889.8	4,130.6	4,576.1	12,596.5	61.5
		その他不燃ごみ		34.3	40.5	28.9	103.7	0.5
		合計		6,535.9	6,768.5	7,167.0	20,471.4	100

【評価】 本学では、廃棄物量を把握するため、2009 年 7 月より廃棄物の計量を行っている。

取組期間中の一般廃棄物排出量は 20,471.4kg (可燃ゴミ 12,596.5kg、不燃ゴミ 103.7kg、ペットボトル 970.3kg、アルミ缶 498kg、スチール缶 1,199.2kg、ビン 475.4kg、紙類 4,628.3kg) で、紙類、飲料容器については再生利用されており、一般廃棄物排出量のうち、再生利用量は 38%という結果であった。また産業廃棄物については年度、月毎での変動が予想されるが、取組期間中の産業廃棄物については 8,340kg の排出があり、特別管理産業廃棄物の排出はなかった。

廃棄物の計量、把握については年間を通しての実績がないため、今後も継続して廃棄物量を把握するとともに、分別の周知、徹底に努め、リサイクル・再利用を促進し、廃棄物量の削減に努めます。



本学では、ファイル等をはじめ、使用済みのもので、再使用できるものはゴミとして廃棄せず、再使用するよう心掛けています。

3-7 環境負荷低減への取組の評価

■学内機密文書、重要文書廃棄処理（溶解処理及びシュレッダー処理）

学内機密文書、重要文書処理のため、溶解処理及びシュレッダー処理を行いました。溶解処理は作業及び最終処理の現場に同行、立ち会いし、確実に処理されたことを確認しました。シュレッダー車の利用時にも作業に立ち会い、確実に処理されたことを確認しました。

□溶解処理（7月）



□シュレッダー搭載車利用（3月）



⑥ 環境教育・研究・環境保全活動等

環境教育に関わるカリキュラムは、共通科目の「自然・環境科目群」をはじめとして、地域環境政策学科、社会文化学科専門科目等として整備、提供している。専門科目については他学部の受講も可能である。特有の自然環境、文化、歴史、社会等、沖縄の地域特性を盛り込んだ環境関連科目を提供している。2008年度は開講61科目、受講者8,038名であったが、2009年度は開講68科目、受講者8,490名と、増加している。さらなる充実を図り、環境意識の高い人材、環境保全等貢献できる人材の育成に努めたい。また、南島文化研究所、沖縄経済環境研究所及び地域環境政策学科、社会文化学科を中心に環境関連の研究に力を入れている。今後地域との連携も含めさらに推進していきたい。

⑦ 環境経営システム等の構築

「エコアクション21の取組のポイント」、「大学におけるエコアクション21の必要性」について学生向けセミナーを開催しました。また教職員向けセミナーを開催し、「大学として、環境に対する研究やカリキュラムを全国に発信できる機会にし、環境マインドの高い学生を育て、地域社会に貢献することが大切である。」とエコアクション21の必要性について講演いただきました。学生、教職員一丸となって環境活動に取り組んでいくため、継続して研修等開催していきます。

■エコアクション21学生向けセミナー

日時：2009年11月25日（水） 場所：本学13号館301教室

講師：NPO法人 沖縄県環境管理技術センター 理事長 名嘉光男 氏

財団法人 沖縄県環境科学センター 環境科学部 部長 古家克彦 氏



3-7 環境負荷低減への取組の評価

■エコアクション21教職員向けセミナー

日時：2010年2月24日（水） 場所：本学13号館301教室

講師：NPO法人 沖縄県環境管理技術センター 理事長 名嘉光男 氏



■緊急事態訓練の実施（消防訓練及び防災消防訓練）

日時：2009年11月25日（水） 場所：本学3号館及びグラウンド

火災を想定した消防訓練及び、地震発生後の火災を想定した防災消防訓練を宜野湾消防署員の指導の下、職員、学生多数参加し実施しました。初期消火、通報、避難誘導、応急救護と、それぞれの役割に分かれ積極的に声を出して機敏に行動していました。次年度以降も継続して実施します。



実際に消火器、消火栓を使った消火活動も体験しました。



また、図書館において年2回消防訓練を実施しています。図書館内での火災を想定し、図書館職員を中心に、避難訓練、利用者の避難誘導、消火訓練等を実施しています。

3-7 環境負荷低減への取組の評価

⑧ 学生サークル等による環境活動（学生参画の推進）

■エコ大学祭の実施（2009年11月28日（土）、29日（日））

11月28日、29日に開催された大学祭で、本学エコサークル「ナチュコ（Naturalist Commune）」を中心に、各団体から参加した学生を建物やグラウンドにエコ係として配置し、学生自らゴミ分別に取り組み、ゴミを出来るだけ出さないエコ大学祭として来場者に呼びかけを行いました。模擬店の中には、使用する皿等もできるだけ使い捨てのものをせず、プラスチック皿等を洗浄して利用する団体もありました。屋内展示でもマイ箸作り、フリーマーケットなどを通してエコをPRしました。



今年度の大学祭のゴミ分別は、本学エコサークルの先導のもと、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ビン、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ペットボトルのふた、段ボールに分別しました。

学生自ら大学祭期間中に分別した資源ゴミ（段ボール類）は、本学エコサークルにより、リサイクル業者に渡され、トイレットペーパー（古紙 100%）に交換され、大学に寄贈されました。

⑨ 啓 発

本学では環境に関する啓発を目的に、掲示及び各種ステッカーを作成しました。学内の講義室及び事務室等に環境負荷の低減への取組に関する掲示を貼付しています。また、電気のスイッチがある箇所には「節電」ステッカーを、トイレをはじめとした水回りには「節水」、ゴミ箱設置箇所には「ゴミ分別」のステッカーを貼付し、講義室及び事務室等に温度計も設置しています。エレベーター扉には「階段利用励行」のステッカーを貼付しており、あわせて夜間、休日運転の部分的停止を行っています。



3-8 各学部環境への取り組み

各学部環境方針は以下のとおりです。

各学部環境方針を踏まえた上で、各学部の環境目標及び環境活動計画について 2010 年度中に策定し、2011 年度より実施する予定です。

□ 法学部 環境方針

法律学科 / 地域行政学科

法学部では、法律や政治を中心とする学部教育の観点に基づいた、循環型社会構築にむけた人材育成と、地域社会への貢献を目指す。

□ 経済学部 環境方針

経済学科 / 地域環境政策学科

大量生産、大量消費および大量廃棄の社会経済システムのなかで自然環境が予測を上回る速度で劣化している。そのような状況に鑑み本学の環境方針に則り、環境問題に適切に対応することにより持続可能な経済発展および環境保全に貢献できる人材を育成し地域社会へ輩出していく。

その達成のために本学部では環境保全活動に加えて環境に関する科目を提供しながら教育研究活動を行う。

□ 産業情報学部 環境方針

企業システム学科 / 産業情報学科

産業・情報・ビジネスに関する教育研究において、情報化・国際化の進展とともに、環境問題にも適切に対応することが求められる。当学部では、本学の環境方針を遵守し、環境保全や環境との調和に配慮した、企業社会との関わりを重視する人材育成・教育研究活動を展開する。

□ 総合文化学部 環境方針

日本文化学科 / 英米言語文化学科 / 社会文化学科 / 人間福祉学科

今日の環境問題に対応するため、本学部では環境保全活動に加えて、環境に関する科目を提供しながら教育研究活動を行う。

3-9 教育・研究における環境への取組

1. 教育からの環境への取組

■環境関連開講科目

2009 年度開講の主な環境関連科目は以下のとおりです。科目数は 68 科目、受講者数は 8,490 名です。

	科目名	科目数	受講者数
共通科目 (自然・環境科目群)	生物学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱ 自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、環境科学Ⅰ・Ⅱ、生物学ゼミ	11	3,131
共通科目 (テーマ科目群) (沖縄関係科目群) (国際理解科目群) (社会・生活科目群) (人間・文化科目群)	基地と自然環境 沖縄の自然Ⅰ・Ⅱ、沖縄の地理 アメリカ研究、タイ研究 地理学Ⅰ・Ⅱ、NPO・NGO 入門 エコロジーの思想	10	1,881
法学部	環境法、地域環境保全論Ⅰ・Ⅱ	3	41
経済学部・総合文化学部 共通	集落地理論Ⅰ、環境法、環境経済学Ⅰ・Ⅱ	4	687
経済学部 地域環境政策学科	環境政策特別講義Ⅱ（環境と経済政策）、環境文化論、環境経営、都市環境論、環境統計学Ⅰ・Ⅱ、島嶼環境論、環境資源論、農業と環境、環境評価入門、環境政策論、環境政策書講読Ⅰ・Ⅱ、環境アセスメントⅠ・Ⅱ、環境教育論、環境会計、産業と環境、環境科学実験、アジア経済と環境、環境評価実践論、交通と環境、地域セミナー、外書講読Ⅰ・Ⅱ、沖縄経済論Ⅰ、生態学概論、土壌学概論、廃棄物論、公害概論、エコフィロソフィ論	31	2,403
総合文化学部 社会文化学科	環境学特殊講義Ⅰ、島嶼環境論Ⅰ・Ⅱ、人間環境論Ⅰ・Ⅱ、環境思想論	6	341
大学院地域産業研究科	環境経済特殊研究Ⅰ・Ⅱ、環境経済特論	3	6
合計		68	8,490

■図書館

図書館での環境関連の新規図書購入数は 2007 年度 202 冊、2008 年度 254 冊、2009 年度 169 冊です。本学図書館所蔵の 2010 年 9 月現在の環境関連図書は 5,224 冊で、図書館利用は、地域の方へも一般開放しています。

今後も環境関連図書の整備・充実を積極的に推進し、情報収集及び教育等のサービス向上に努めます。



3-9 教育・研究における環境への取組

2. 研究からの環境への取組

■研究テーマ

2009 年度の本学教員の主な環境関連研究テーマは以下のとおりです。

研究テーマ	学 部	学 科	氏 名
環境保存の価値と環境保全が会社における経済価値	経済	地域環境政策	呉 錫畢
住環境における二酸化窒素の濃度変化に関する研究	経済	地域環境政策	名城 敏
島嶼沿岸地域における浸透地下海水に関する研究	経済	地域環境政策	新垣 武
観光・環境マップ作成システムの開発	経済	地域環境政策	根路銘 もえ子
琉球列島の海岸環境と貝類の生息状況に関する研究	経済	地域環境政策	山川 彩子
アメリカ軍の活動に係る環境政策と法の研究	経済	地域環境政策	砂川 かおり
トラベルコスト法によるイノー（コモンズ）の経済評価と環境保全による実証的研究	経済	地域環境政策	呉 錫畢
浅海域に堆積した赤土砂の除去方法に関する研究	経済	地域環境政策	新垣 武
地域絶滅した沖縄本島産ハマグリ類に関する環境考古学的研究	経済	地域環境政策	山川 彩子

■研究論文等

2009 年度の本学教員の主な環境関連研究論文は以下のとおりです。

1. 上江洲 薫（経済学部）「沖縄県金武町・東村におけるエコツーリズムによるコミュニティ・ビジネスの展開と波及構造」 Expansion of community business by ecotourism and its ripple structure in Kin Town and Higashi Village, Okinawa Prefecture , 沖縄国際大学経済論集 6(2), 143-156, 2010-03 , 沖縄国際大学経済学部
2. 新垣 武（経済学部）、名城 敏（経済学部）「沖縄県における太陽光発電(2)」 Solar-electric power generation in Okinawa (2) , 沖縄国際大学経済論集 6(2), 111-129, 2010-03 , 沖縄国際大学経済学部
3. 小川 護（経済学部）「沖縄本島における一般廃棄物の処理と課題--那覇市・宜野湾市・浦添市・東村・嘉手納町・恩納村を事例として」 Issues pertaining to general garbage disposal on Okinawa Island: the cases of Naha City, Ginowan City, Urasoe City, Higashi Township, Kadena Town, and Onna Township , 南島文化 (32), 115-133, 2010-03 , 沖縄国際大学南島文化研究所
4. 上江洲 薫（経済学部）「沖縄県読谷村・本部町における観光開発の展開とその地域的影響」 Expansion of tourism developments and their regional impacts in Yomitan Village and Motobu Town, Okinawa Prefecture , 沖縄国際大学経済論集 6(1), 9-40, 2009-09 , 沖縄国際大学経済学部
5. 山川(矢敷) 彩子（経済学部）「沖縄県港川干潟における生物観察」 Biological survey of the Minatogawa tidal flat, Okinawa 沖縄国際大学経済論集 5(1), 125-133, 2009 , 沖縄国際大学経済学部
6. 山川(矢敷) 彩子（経済学部）「沖縄県における海岸埋立の状況」 Coastal reclamation in Okinawa Prefecture 沖縄国際大学経済論集 5(1), 119-124, 2009 , 沖縄国際大学経済学部
7. 新垣 武（経済学部）「大気中炭酸ガス分圧の変化による塩水の pH 変化」 Variation in pH of brine due to pCO₂ change in the atmosphere , 沖縄国際大学経済論集 5(1), 49-56, 2009 , 沖縄国際大学経済学部
8. 兪 炳強（産業情報学部）「観光型島嶼地域における農業経営の資源環境保全に関する一考察--沖縄県石垣市を事例に」 A case study of environmental conservation on farms in Ishigaki Island , 産業総合研究 (17), 13-27, 2009 , 沖縄国際大学産業総合研究所

9. 新垣武、名城敏 (2009)「沖縄県における太陽光発電」 「アジア青年の家」オープンセミナー ポスターセッション
10. 新垣武 (2009)「済州島における水利用の現状と今後の課題」 沖縄国際大学南島文化研究所叢書(2)『韓国・済州島と沖縄』 沖縄国際大学南島文化研究所
11. Robert A. J. Bogan & Shigeru Ohde & Takeshi Arakaki & Ikuko Mori & Cameron W. McLeod (2009)「Changes in Rainwater pH associated with Increasing Atmospheric Carbon Dioxide after the Industrial Revolution」, Water Air Soil Pollution, V. 196, p.263-271.

■ 研究所の環境関連事業活動

□ 南島文化研究所

沖縄の地理的位置と調査地域



琉球列島詳図と調査地域



2009年度の南島文化研究所の環境関連の主な事業活動は以下のとおりです。

1. 南島文化地域学習

第31回テーマ：「渡嘉敷島の自然と歴史」

日 時：2009年11月14・15日（一泊二日）

場 所：渡嘉敷島 参加者：28名

講 師：上原静所員、名城敏所員、新垣武所員、崎浜靖専任所員、杉本信夫特別研究員、
座間味昌茂氏（村研修指導員）

【主なスケジュール】

1日目：泊港→渡嘉敷島 歴史民俗資料館～村役場～根元屋の石垣

2日目：阿波連ビーチ～安波連崎灯台～森林公園～戦跡碑～安波連浦貝塚
～港の見える丘展望台～白玉之塔野～ヒーターティヤー跡



2. 久米島総合調査

名城 敏 所員（経済学部教授） 「久米島の自然環境」

3. 韓国調査

名城 敏 所員（経済学部教授） 「珍島の自然環境」

□ 沖縄経済環境研究所

2009 年度の沖縄経済環境研究所の環境関連の主な事業活動は以下のとおりです。

1. 共同調査

プロジェクト 「先島諸島における観光と環境に関する総合調査」		
研 究 目 的	沖縄県経済の原動力として観光産業が果たす役割はますます重要になると期待されており、既存観光産業のさらなる発展と新たな観光産業の展開が重要な課題となっている。また、沖縄の自然環境は観光資源として果たす役割も大きいことから、その保全は経済上も重要な課題となっている。これらの課題に対応するために沖縄経済・環境研究所では、初年度のプロジェクトの一つとして、「沖縄の観光と環境」をテーマとした調査研究を実施する。	
研 究 期 間	2009 年 4 月～2010 年 3 月	
代 表 者	新垣 武(経済学部准教授)	
メ ン バ ー	名城 敏(経済学部教授) 上江洲 薫(経済学部准教授) 砂川 かおり(経済学部講師)	呉 錫畢(経済学部教授) 山川 彩子(経済学部講師) 喜舎場 梢(研究支援助手)
調 査 地	石垣市・竹富町	

2. 国連環境計画作業部会

国連環境計画・環境規範と軍事活動に関する国際市民社会作業部会	
日 時	2009(平成 21)年 11 月 27 日(金)～28 日(土)
会 場	沖縄国際大学 13 号館 3 階 13-302 教室
主 催	国連環境計画
共 催	沖縄経済環境研究所・沖縄環境ネットワーク
基 調 講 演	1) "Mākua: Ensuring Military Compliance with Environmental Laws" 邦題:「マクア: 軍隊による環境法の履行を確実にすること」 講演者: デビット・ハンキン 氏 (弁護士・アースジャスティス) 2) "Environmental Norms and Military Activities in Okinawa" 邦題:「沖縄における環境規範と軍事活動」 講演者: 桜井 国俊 氏 (沖縄大学学長・沖縄環境ネットワーク世話人)
分 科 会	1) 紛争後の環境問題 議長: 桜井国俊氏(沖縄環境ネットワーク世話人) 2) 環境回復と再開発 議長: 新垣武所員(経済学部准教授) 3) 環境管理と訓練時における課題 議長: 佐藤学氏(法学部教授) 4) 透明性、計画、参画 議長: 新垣武所員 5) 外国駐留軍隊 議長: 佐藤学氏
報 告 者 (パネリスト)	▽ジュン・ノーマン氏(Friends of the Earth, Brisbane、オーストラリア) ▽チャーボーボキンゴ・ンフィン氏

	(Federation of Environmental & Ecological Diversity For Agricultural Revampment & Human Right、カメルーン) ▽ミシカ・アルモミン氏(Women and the Environment Organization、イラク) ▽ムスワヒリ・エバンズ氏 (Center for natural Resource management, Advocacy and Marketing、ケニア) ▽ギバンニ・パタング氏 (Kalikasan People's Network for the Environment、フィリピン) ▽ワン・ミンヒャック氏(Green Korea United、韓国) ▽グレゴリー・スミス氏 (Nelson Mandela Bay Local Environmentalists、南アフリカ) ▽デビッド・ハンキン氏(Earthjustice、アメリカ) ▽ニルダ・メディナ氏 (Committee for the Rescue and Development of Vieques、アメリカ) ▽照屋一博氏(北谷町役場総務部企画財政課主幹、日本) ▽森山憲一氏(名護市久志住民、日本) ▽河村雅美氏(沖縄生物多様性市民ネットワーク副事務局長、日本) ▽又吉進氏(沖縄県知事公室基地対策課課長、日本) ▽伊波洋一氏(宜野湾市長、日本) ▽桜井国俊氏(沖縄環境ネットワーク世話人、日本) ▽砂川かおり所員(経済学部講師、日本)
司 会 進 行	統 括: 砂川かおり所員、ウェストン・ワッツ作業部会事務局員 27 日: 新垣勝弘副所長(経済学部教授)、砂川かおり所員 28 日: 上江洲薫所員(経済学部准教授)、友知政樹所員(経済学部准教授)
関 連 資 料	◇CIVIL SOCIETY WORKSHOP Report (作業部会報告書) “UNEP INTERNATIONAL CIVIL SOCIETY WORKSHOP ON ENVIRONMENTAL NORMS AND MILITARY ACTIVITY” http://www.unep.org/law/PDF/ReportofIntlCivilSocietyWorkshopMilitary.pdf ◇Message from Civil Society Organizations (市民社会団体からのメッセージ) http://www.unep.org/law/PDF/MessageCivilSocietyOrganizations.pdf ◆関連サイト 沖縄環境ネットワーク: 作業部会報告書(最終版[英文]) http://web.me.com/drakowerenti/Site/Workshop_Report.html



3. 研究会

テ ー マ	「国連環境計画 環境規範と軍事活動に関する政府間会議参加報告」
講 師	砂川 かおり (沖縄国際大学経済学部 講師)
実 施 日	2010(平成 22)年 3 月 9 日(火)
場 所	沖縄国際大学 13 号館会議室

3-10 地域・社会への還元

1. 学生の輩出

■資格称号

本学では、各資格課程のカリキュラムを修めた者は、全国大学実務教育協会認定の「環境マネジメント実務士」「上級環境マネジメント実務士」資格称号を得ることができます。

「環境マネジメント実務士」の資格取得者数は2008年度27名、2009年度11名です。また「上級環境マネジメント実務士」の資格取得者数は2008年度31名、2009年度16名です。

今後も環境に関するカリキュラムの充実を図り、環境マインドの高い卒業生、環境に関する（専門）知識を有する卒業生の輩出により一層力を入れます。

2. 環境に関するコミュニケーション

■学外公開講座提供科目

本学と各機関との共催で実施する講座で、本学から講師を派遣し開催します。2009年度の学外公開講座提供科目のうち、環境関連の講座は以下のとおりです。

講座名	担当講師		
ゲームの理論で考える環境問題・エネルギー問題	経済学部	地域環境政策学科	友知 政樹
環境教育のすすめ ― 感じる心と飛び跳ねる体 ―	総合文化学部	社会文化学科	宮城 邦治
ヤンバルの森 ― 貴重な自然資源は守れるか ―	総合文化学部	社会文化学科	宮城 邦治

■大学入門講座提供科目

本学の各学部から提供された高校生向け講座です。沖縄国際大学から講師を高校へ派遣する出前講座と、各高校から本学へ高校生を招き行うキャンパス講座の二種類の実施方法があります。2009年度の大学入門講座提供科目のうち、環境関連の講座は以下のとおりです。

講座名	担当講師		
環境はいくらかー沖縄のサンゴ礁を測り、真の豊かさを探るー	経済学部	地域環境政策学科	呉 錫畢
地球で何がおこっているのか？	経済学部	地域環境政策学科	名城 敏
環境問題をコンピュータ・シミュレーションで考える ー サンゴ礁とオニヒトデ ー	経済学部	地域環境政策学科	友知 政樹
環境教育のすすめ ― 感じる心と飛び跳ねる体 ―	総合文化学部	社会文化学科	宮城 邦治
ヤンバルの森 ― 貴重な自然資源は守れるか ―	総合文化学部	社会文化学科	宮城 邦治

■学内定例講座

2010年度より「学内定例講座」を、「うまんちゅ定例講座」として名称を改め、より親しみやすい講座の提供を心掛けていきます。うまんちゅ定例講座は、地域に根ざした大学として、地域の方々と、日常や将来の糧になるような知識を共有できればとの観点から、毎年テーマを設定し、わかりやすく解説し考えていく講座です。2010年度は、「地域と環境ありんくりんー経済発展と快適環境の調和を目指してー」と題して地域と環境をテーマに講座を開講します。

3-10 地域・社会への還元

3. 地域・社会に向けての環境活動・環境関連団体等への参加、支援

■学生サークル活動

沖縄国際大学 経済学部 地域環境政策学科 3 年次 (沖縄国際大学 E A 2 1 内部監査員)

学生サークル EARTH☆FROGS (アースフロッグス) 代表 大城 友梨奈



写真中央が大城さん

学生エコサークル EARTH☆FROGS は「学生のチカラで社会をカエル」をテーマに 2007 年 7 月から活動を行っています。メンバーは県内の大学、短期大学、専門学校が集まって活動する県内初のインカレ型環境サークルです。

学生だけでなく、企業、行政、地域の方と関わり、環境問題をわかりやすく楽しく伝えることが目的で、これまで様々な活動を行ってきました。活動場所は県内全域ですが、大学祭への出店や大学周辺のクリーンアップ活動など大学内の活動にも力を入れています。

アースフロッグスの主な活動実績

2007 年度

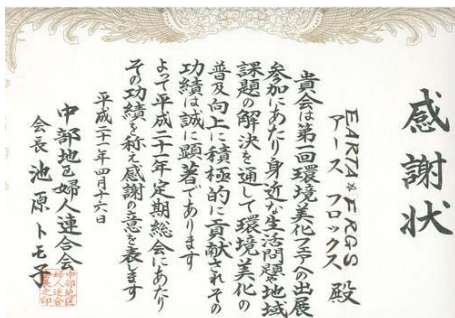
- 7 月 ・ 結成
- 8 月 ・ 沖縄ファミリーマートとの懇談会
 - ・ 沖縄県環境整備課、沖縄県環境政策課、那覇市環境政策課ゼロエミッション推進室職員との意見交換会
- 9 月 ・ 法政大学のゼミ生との交流会 ・ 情熱大学出展 ・ 那覇市環境フェアーで使用済み天ぷら油の回収
- 11 月 ・ 名桜大学、ジャスコ那覇店でオリジナルマイバッグの無料配布
- 12 月 ・ HIP-HOP グループ soul camp とコラボレーション (ライブ等で一緒にエコを知ってもらう取り組み)
 - ・ RBC「EARTH FROGS の軌跡」1 時間番組放送
- 3 月 ・ 久高島で植林

2008 年度

- 4 月 ・ 伊是名島でビーチクリーン、キャンドルナイト ・ 沖縄タイムスに当サークルの活動内容掲載
- 8 月 ・ RBC 主催ビーチバレー大会ビーチクリーン
- 9 月 ・ トランスコスモス CRM 沖縄とサッカー観戦後のクリーンアップ
- 10 月 ・ 那覇祭り会場にてゴミステーションの設置、分別指導
- 11 月 ・ 冲国大祭に出展 模擬店から使用済み油を回収 (パイオ・ディーゼル燃料へ)、マイ箸作り、エコグッズ販売
- 12 月 ・ 名桜大学祭出展 ・ 全国大学生環境活動コンテストにおいて 56 団体中 上位 8 位入賞、会場賞受賞
- 1 月 ・ RBC「エコハビ」(沖縄県環境活動コンテスト) の様子を放送
- 2 月 ・ エコツアー開催 ・ 冲国大ホームページ 全国大学生環境活動コンテスト受賞の紹介
 - ・ NAHA ユースフォーラム参加
- 3 月 ・ green bird(東京発の街のクリーンアップ活動)開始

◇ 2009年度の主な活動

4月16日 ●中部地区婦人連合会より出前授業の感謝状授与●



2008年12月13日にうるま市石川体育館で行われた第一回中部地区婦人連合会『環境美化フェアー』で一般の方を対象とした出前授業を行いました。環境美化に貢献したということで中部地区婦人連合会から感謝状をいただきました。

5月9日 ●大学周辺クリーンアップ● (通学路をきれいに！)

およそ1時間かけて沖縄国際大学前の道路の清掃を行いました。タバコの吸殻が多く目につきました。



地域の方から「がんばってね」とジュースの差し入れをいただきました。

◆メンバーの感想

- ・初めて参加し、めんどくさいかなと思ったけどすごく楽しかった。
- ・地域の方から差し入れももらい嬉しいけど、ゴミがあるのは残念です。

5月16日 ●第2回エコツアー● 場所：沖縄明治乳業、国際海洋情報センター



沖縄明治乳業では商品ができる過程の見学、企業でのリサイクル推進や温室効果ガス削減など環境への取り組みを学びました。

国際海洋情報センターでは海の神秘を学び、感動しましたが、深海にマネキンが沈んでいるなど投棄ゴミの問題も深刻ということを知りました。沖縄の生物多様性に富んだ美しい海を後世に残す意義を考えるきっかけになりました。

6月11日 ●出前授業● 場所：宮古市立池間小学校

宮古島は環境モデル都市に指定されています。池間小学校は宮古島のさらに離島にある全校生徒20名ほどの小さな学校です。授業の内容は子どもたちが飽きないように体験キッドを使って体を動かしたり、かぶりものをしておもしろく劇をしました。参加した小学生からは「日本っていっぱいエネルギー使っているんだね」「電気は消すようにする！」などの声があがりました。

地元紙やテレビでも取り上げられ、島全体への環境啓発へつながりました。



7月4日 ●那覇市NPO活動支援基金審査会において助成金の授与●

今後の活動をプレゼンし、助成金をいただきました。

「つながりパワー！エコでハッピーになろう！」という事業名の下、同世代だけでなく、子どもから大人までたくさんの人と交流を持ち、エコに興味をもってもらう活動を展開するための予算に充てました。

7月4日、5日 ●The blue E.A.R.T.H in onnason vol.1（クリーンアップ&ライブ）●

このイベントは県内でも有数の観光地である恩納村をいくつかのポイントに分けてクリーンアップし、音楽を楽しむイベントです。地元の方と万座毛を担当し、たくさんのゴミを集めました。ダイバーや釣り人の一部が残したゴミが多数ありました。

◆メンバーの感想

- ・恩納村出身なので、みんながきれいにしてくれるのは嬉しいが、たくさんゴミがあり恥ずかしかった。
- ・海を楽しむ人が海を汚すのはショック。今回きれいになった海を見て、もうゴミを捨てないでほしい。



8月16日 ●ラジオ出演●（FMレキオ）

那覇市の高校生が所属するボランティア団体「LOVE&PEACE(ラッピー)」と環境について対談。地球温暖化のメカニズムや原因を探り、自分たちにできることについて話しました。

9月14日 ●クリーンアップ●

沖縄市で行われる全島エイサー祭りの翌日、会場周辺のクリーンアップを行いました。



会場ではビアフェスタが行われていたため、会場の外にもビールのカップがたくさん落ちていました。

◆感想

お酒の飲める大人がゴミを捨てていて残念。子供に示しがつかない。楽しいお祭りなのにポイ捨てが多くてもったいない。

10月23日 ●ラジオ出演●

タイフーンfmの「NPO ヒトワク」で活動紹介を行いました。

多くの方に学生がエコをしていることを知ってもらい、興味を持ってもらうきっかけになりました。



11月3日 ●クリーンアップ●

国際通りのクリーンアップを行いました。

「アースシンクプロジェクト」の一環で、企業や学生、NPOで活動しました。

国際通りは全面禁煙でその周知のためにいたるところに注意の看板があるにも関わらず、たくさんのゴミが落ちていました。



11月28日、29日 ●沖縄国際大学祭●



模擬店から使用済み油を回収し、BDF（バイオディーゼル燃料）化し企業で使ってもらいました。

他にもエコグッズ販売、マイ箸づくり体験をし、たくさんの来場客に「身近で楽しめるエコ」を伝えました。

12月5日、6日 ●名桜大学祭●

出展内容：エコグッズ販売、フリーマーケット、エコクイズ

12月26日 ●全国大学生環境活動コンテスト出場●

全国の大学生が環境活動をプレゼンする大会です。アースフロッグスは沖縄の紹介と共に私たちの活動を発表しました。他大学の学生から「いつも楽しそうに活動していて、まわりを引き込むことができる団体」と評価を受けました。全国の大学生の活動もすごく刺激になり、今後の活動の参考になりました。



◇2010年度の主な活動実績

- 4月 ・Point green! Music Festival2010～沖縄～（ライブ会場のクリーンアップ）
- 5月 ・那覇市ごみゼロの日国際通りクリーンアップ
- 6月 ・エコウエディングのボランティア（他にビーチクリーン、ゴミ箱設置）
・北谷港周辺のクリーンアップ（北谷町海をきれいに！）
- 7月 ・The blue E.A.R.T.H in onnason vol2
・那覇市 NPO 活動支援基金取得
・「夏休みこども自由研究」のボランティアスタッフ
・QAB より活動資金授与
・八重瀬町破名城海浜ビーチクリーンアップ&海あしび体験

◇2010年度今後の活動予定

「美しい沖縄と環境問題を伝え、環境問題を考えるうちなーんちゅ（沖縄人）が増えてほしい」という思いから、フリーペーパーを発行します。

これまでの活動の中で、沖縄の美しい自然と環境問題が隣りあわせであるということに気づき、この事実を沖縄の人に知ってもらいたい！沖縄の人に行動してほしい！と思うようになり、それを伝える手段としてフリーペーパーの発行を思いつきました。

内容としては

- ・エコなお店の取材（ごみ削減や地産地消に取り組むお店）
- ・環境団体や企業との協同（エコ仲間の紹介）
- ・環境配慮型企業や工場の見学（外部を巻き込んだエコツアー）
- ・豊かな自然の中でのフィールドワーク（外部を巻き込んだエコツアー）

これらを盛り込んで、観光雑誌のように手に取りやすく、そして、沖縄の魅力、問題を紹介できる冊子を作っていきます

今後も地域・社会、大学と連携して、「楽しくエコを伝える」取り組みを継続、実施していきます。

4. 環境関連法規等の遵守状況

1. 環境関連法規等の遵守状況

No.	項目	関係法令名	遵守状況
1	公害対策	大気汚染防止法	○
		水質汚濁防止法	○
		浄化槽法	○
		下水道法	○
		土壌汚染対策法	○
		騒音規制法	○
		悪臭防止法	○
2	地球環境	地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策法)	○
		エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)	○
		特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律 (フロン回収法)	○
		生物多様性基本法	○
3	リサイクル・ 廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)	○
		資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)	○
		食品循環資源の再利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)	○
		特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	○
		使用済み自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	○
		ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法 (PCB 特別措置法)	○
		建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	○
4	化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR 法)	○
		毒物及び劇物取締法 (毒劇法)	○
		高圧ガス保安法	○
		消防法	○
5	環境一般	環境基本法	○
		循環型社会形成推進基本法	○
		国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)	○
		環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進 に関する法律(環境配慮促進法)	○
		環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律 (環境活動・環境教育推進法)	○
		沖縄県生活環境保全条例	○

2. 訴訟等

2010 年 10 月現在、環境関連法規を遵守し、法律違反はありません。

また、本学開学以来、関係機関からの環境に係る指摘、苦情、訴訟等はありません。

5. 代表者による全体の評価と見直し

本学は、平成19年12月に「エコアクション2.1導入プロジェクトチーム」を発足させ、平成20年5月に委員会を開催し、委員会名称を「エコアクション2.1導入委員会」とし、環境マネジメントシステム導入について議論してきました。平成21年1月には「沖縄国際大学環境方針」を決定し、平成21年7月15日には「沖縄国際大学環境経営マニュアル」を制定し、7月31日にエコアクション2.1キックオフ宣言を行いました。そして、平成21年11月から平成22年1月までの3ヶ月の試行期間を経て、その取組状況がこの環境活動レポートとして形となりました。

さて、本学の試行期間における主な状況をみると、前年度実績のマイナス1%を環境目標として掲げましたが、二酸化炭素排出量が前年度より増加しています。これは13号館の稼働に伴う電力消費増によるものと推測されます。また水使用量については、わずかではありますが、前年度より減少しており、試行期間としては評価できるのではないのでしょうか。廃棄物については、今回は廃棄物量の把握を主な目標としておりましたが、今後も継続し、廃棄物の分別、削減を推進していきます。

今回の試用期間において目標を達成できなかった項目が多数あるため、あらためて目標達成に向けて全学で取り組むこととします。そのためには学生、教職員をはじめ、関係者の意識改革からはじめたいと考えます。さらにエコアクション2.1活動の周知、徹底を促し、一層の理解を賜りたいと思います。

今後とも必要に応じて環境方針、環境目標、環境活動計画等の見直しを行い、円滑な運用に努めていきます。また沖縄国際大学環境活動を積極的に学生、教職員及び一般社会に公開します。

平成22年度中に内部監査チームを組織し、内部監査を実施していきます。また、学生が参画できるような環境経営システムを確立していきます。

本学のエコアクション2.1活動は、環境経営システムとして、機能していない部分も見受けられますが、まだ緒に就いたばかりです。今後も環境関連法規を遵守し、エコアクション2.1活動を積極的に推進することにより、環境意識の高い人材を育成し、環境保全及び環境負荷の低減に取り組む所存であります。



平成22年5月20日
沖縄国際大学
学長 富川 盛武

この環境レポートは本学ホームページ <http://www.okiu.ac.jp/>でも
公表しています。



沖縄国際大学

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

沖縄国際大学 総務部 管財課

TEL : 098-893-6664 FAX : 098-893-1164

<http://www.okiu.ac.jp/>

「学びたい」その意欲に応える大学



沖縄国際大学

OKINAWA INTERNATIONAL UNIVERSITY

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾 2-6-1

www.okiu.ac.jp